

実践のまとめ（第5学年社会科）

令和3年9月29日第5校時

指導者 上越市立大養小学校

教諭 岩野 学

1 研究テーマ

学習することを楽しみ、興味をもちながら、積極的に表現することができる児童の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年3月告示）の社会科の学習の具体的な改善事項において、「深い学びの実現のためには、[社会的な見方・考え方]を用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である」と述べられている。さらにその中には、「主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められる」とある。このことから、社会科の学習では、ただ知識の獲得のみでなく、深い学びを構築することのできる学習活動を展開していく必要があると考えた。

これまで私は、授業で問題解決型学習や体験的な学習を主として取り組んできた。その中で、児童自身の考えや疑問を拾いきることができなかつたり、単元の内容に固執をしすぎるあまり、既習事項と関連させる手立てをうまく講じられなかつたりするという課題が見られた。児童の考えや疑問を拾いきることができなければ、教師主体の「やらされている」学習となってしまう、社会科で考えるという楽しさを味わうことができない。また、社会科は既習事項との関連が大切な教科であるが、単元の中だけに固執をすることで考える範囲が狭まってしまい、様々な事象をつなげて考えるという楽しさを奪ってしまう恐れがある。

そこで、本研究では、児童自身が「調べたい・考えたい」となるような学習課題の設定し、授業を実践する。また、振り返り活動を充実させることにより、授業の中では拾いきれない考えや疑問を残さず拾い、「考えることが楽しい」と感じるできるよう取り組んでいく。既習事項とのかかわりについては、「〇〇の学習ではどうだったか」に気付かせ、共通点や相違点を考えることで、社会的な事象を多面的に考えることができるようにしていきたい。

(2) 研究テーマに迫るために

本研究では、積極的に表現をする児童を目指すため、3つの柱を意識して構築していく。

① 学習課題の工夫

教師から一方的に設定するのではなく、子どもから出た疑問を共有し、学習の方向を示すことで意欲を高める。

② 振り返り活動の充実

毎時間の振り返りの時間を確保する。振り返りには自分の考えや、授業中に取り上げられなかった疑問を自由に記述させる。児童の考えを暗に切り捨てず、次時には振り返りをもとにした教師のフィードバックや全体での共有を行い、自分以外の考えや疑問についての交流を行う。

③ 既習事項を生かした単元のまとめ

各単元の最後に「自分はどう思うか？」を主軸とし、今まで学習した事実と関連させて考察ができるようにしていく。理由を明確に書けるようにしたい。

(3) 研究テーマに関わる評価

以下の2点で評価を行う。

- ① 授業中の発言や振り返りの内容から、手立ての有効性を検証する。
- ② 児童アンケートによる、意識の変化を調査する。
 - ・ 社会科が楽しいと感じた児童の割合が80%以上となる。
 - ・ 社会科で自分の考えを積極的に書けるようになった児童の割合が80%以上となる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

自動車の生産にはげむ人々（小学校社会5 教育出版）

(2) 単元の目標

- ・ 我が国の自動車生産が、その生産に関わる人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。
- ・ 自動車生産に関わる人々の働きを多角的に考える力、生産にかかわる課題を把握して、これからの自動車生産の発展について考えたことを説明する。
- ・ 我が国の自動車生産について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

	知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	自動車生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫をして、工業生産を支えていることを理解している。	自動車産業に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、人々の働きを考えたり、学習したことをもとに、これからの自動車生産の発展について考えたりして、適切に表現している。	我が国の自動車生産について、自分で予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に追究し、解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画（全8時間 本時3／8）

	学習内容	学習活動	主な評価基準と方法
1次 4時間	①自動車の歴史を知り、昔と今の性能の違いと、生産力の違い。 ②自動車工場の立地や規模、施設について知り、生産の様子。 ③自動車の生産工程に着目し、生産の工夫や努力、想いを捉える。 ④ミスを防ぎ、効率よい生産性を保つ工夫。	○昔と今の自動車・自動車生産の様子を資料から読み取り、分かったことなどをまとめる。 ○自動車工場の写真から、立地や規模、施設の概要について調べてまとめる。 ○単独生産と分業生産の違いについて実際に検証し、気付いたことをまとめる。 ○組み立てラインで働く人について調べ、そこに見られる工夫について話し合う。	思・判・表 自動車の性能や生産の様子の変化について、資料から読み取り、自分の考えを表現している。【ノート】 知・技 工場の立地の特徴、効率的に作業を進める工夫、働きやすい環境をつくる取組について理解している。【発言・確認問題】 態 自分の予想をもとに、自分なりに考え、解決に向けて主体的に追究しようとしている。【観察】
2次 2時間	⑤部品調達の流れや生産の工夫・努力に着目し、自動車工場を支える関連工場の役割を捉える。 ⑥自動車が工場から販売店に届くまでの流れに着目して、出荷に関わる人々の努力や工夫、工場の立地と輸送との関係について捉える。	○関連工場について調べ、部品調達における工夫やその役割についてまとめる。 ○自動車の輸送について複数の資料から読み取り、新車を運ぶ人たちの努力や工場の立地との関係で分かったことを整理する。	知・技 自動車生産を支える関連工場の役割と結びつきや、自動車の輸送に関わる人々の工夫や努力、輸送しやすい工場の立地について理解している。【発言・ノート】

3 次 2 時 間	<p>⑦新しい自動車の機能に着目し、消費者のニーズに合わせた開発を進めていることを捉える。</p> <p>⑧環境や福祉などに配慮した自動車に着目し、多様な人々のニーズを反映した自動車生産が進められていることを捉える。</p>	<p>○新しい機能の開発について、収集した資料から調べ、消費者のニーズと、それに応えようとする人々の思いについて考える。</p> <p>○現代の諸問題を考え、次世代自動車の普及について自分の意見をまとめる。</p>	<p>知・技 様々な人が協力して、消費者のニーズを反映した自動車開発を進めていることを理解している。【発言・確認問題】</p> <p>思・判・表 現代の諸問題を考え、自分の意見を具体的に示している。【ワークシート】</p> <p>態 学習を受け、これからの自動車生産について主体的に考えている。【観察】</p>
---------------------------	--	---	---

4 単元と児童

(1) 単元について

本単元では、自動車の生産に携わる人々と、その努力や工夫にふれることを主として学習していく。はじめに、自動車工場の特徴や工場での働き方についての学習を行う。自動車の歴史を調べることで、機能や生産性の変化をつかみ、現代の自動車産業の大枠を捉える。また、工場内の生産体制に焦点を当て、工業生産の特徴である「早く・多く」生産するためどのような取組をしているのかを考える。その際、分業制の作業形態に着目する。単独作業と分業とでどのような違いがあるのかということを、実体験をもとに感じ取らせたい。

次に部品の製造と自動車の輸送についての学習を行う。自動車のように数多くの部品を用いる場合、たくさんの関連工場の力を得ながら1台の自動車が製造されるということを理解させたい。ここで、作業の効率化で分業制を取り入れていることやライン製造をしていることを想起させる。短時間でたくさんの品物をつくるという日本の工業生産の特徴を押さえるにあたり、分業制は作業の効率化や大量生産につながっていると感じ取るために体験を通した活動は有効だと考える。また、製品の輸送についても、目的や予算に応じて様々な方法で輸送を行っているということを、既習事項である農業・漁業と関連させて考えることができるようにしていきたい。

最後にこれからの自動車産業について考えていく。その際、消費者のニーズや社会にみられる課題と関連付けて考えさせ、その考えを表現したり、ノートにまとめたりする活動を設ける。単元を通し、自分の考えをもち、根拠を明確にして表現する姿勢を身に付けていきたい。

(2) 児童の実態 (男子 20 名、女子 12 名、計 32 名)

学習に対しては精一杯取り組む児童が多く、話し合いや振り返りを書く活動では全員が真剣に課題に向かっていく姿が見られる。4月当初は、社会科に対して苦手意識が見られる児童が多く見られたが、社会に対する興味や関心を生かすため、提示資料を工夫して学習を進めた。社会科の学習では、PCのスライドを利用して児童の興味を誘う授業を展開している。現在は学級全体が意欲的に社会科に取り組んでいる。

1学期は主に自分の振り返り(学級では「学び」と呼んでいる)を書くことを重点的に取り組んできた。各時間に出る課題に対して自分の考えや疑問を書くことを意識し、自分の考えを確実にもてるようにした。児童は回数を重ねるごとに、学びの量が増加し、書くことが苦手な児童も積極的に「学びを書きたい」という意欲の高まりも生まれた。こうした意欲を維持していくため、児童自身が主役となるような授業づくりを継続していきたい。

5 本時の展開

(1) ねらい

自動車製造の疑似体験活動をとおして感じ取った分業制の効率のよさを、自動車生産工程と重ねて考え、分業制の利点を考える。

(2) 展開の構想

本時は自動車生産工場の仕事の工夫について考える学習を行う。はじめに、自動車生産の工程について、スライドを使って紹介する。その中で、学校で行った折り鶴づくりの時間を想起させ、一人で作業をしているのか、分担をしながら作業をしているのかということに着目させる。そこで、「なぜ分業で仕事をする必要があるのか」「人数がいるのであれば、1回で1台をつくった方が効率的でないか」ということについて疑問が生まれる。

そこで、実際に学級を2つに分けて自動車生産の疑似体験を行う。この中でグループ作業をした方がたくさんの自動車がつくれるということを確認し、実際の生産に置き換えて考える。その際、なぜ多くの自動車をつくることができたのかということを中心に考え、自分で考えたことが実際の生産にも直結していくという感覚を味わわせたい。自動車の製造は本時の活動のように、効率化を図るために様々な取組があるということを確認していきたい。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働きかけ ・予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
5	○自動車製造の工程を確認し、自分たちが行った作業と比べて気付くことを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">なぜ、車づくりは、仕事を分担しながら行っているのだろう</div>	○自動車製造の方法を確認していきます。自動車づくりにはどのような特徴があるでしょうか。 ・流れながら作業している。 ・少しずつ作業しているね。 ・何で細かく分けて作業しているのかな。	◇過去に行った折り鶴作りと比べ、共通点や相違点を見つけるようにする。 ◇児童の疑問を引き出すため、あえて細かく説明せず、写真をよく見るように促す。 ○つぶやきは全体共有する。
15	○自動車製造の疑似体験の説明を行い、それぞれの方法で自動車をつくる。	○これから実際に2つのグループに分かれて自動車を生産してみましょう。制限時間内にどちらのグループが多く作ることができるでしょうか。 ・1回で何台もできた方がたくさんつくれるよ。 ・でも、役割が決まっていた方がやりやすそうだよ。	◇役割は事前に決めておく。 ◇実際の製造と同じ感覚で行うようにするため、雑につくることのないように共通理解を図る。 ◇主な作業は以下の通り。 ①車体部分を切る ②タイヤを描き、切る ③車体に色を塗る ④パーツを貼り付ける ⑤完成品を検査する
5	○結果を共有し、分業との相違点を考える。	○グループでつくった方がたくさんの車をつれました。何が違ったのでしょうか。 ・作業内容が決まっているから、集中して作ることができた。 ・同じ作業だったので、だんだんとコツがつかめてきた。	◇それぞれのグループにやってみての感想を聞き、考えにつなげる。 ○出た意見は共有し、全体が納得して考えることができるようにする。
15	○考えた内容と実際の自動車生産について照らし合わせ、製造の工夫について考える。	○今日の体験で分かったことを、実際の製造に置き換えて考えてみましょう。分業の利点とは何なのでしょうか。 ・早く、たくさんつくれる。 ・車は機械だから、集中してつくれると安全なものがつくれそう。 ・一人一人の作業が楽なのではないかと思う。	◇効率化を重視し、早く作るということも大切だが、安全面からの視点も入れ、うまくバランスをとっていることを押さえる。 ○実際の工場の話の提示し、自分たちの意見を確認する。 態 自分の考えを積極的に発言したり話したりする。

5	○学習をまとめ、本時の学びを書く。	<div style="border: 2px solid orange; padding: 5px;"> <p>まとめ</p> <p>自動車工場仕事を分けている理由は・・・</p> <p>①一人の仕事量が少ない</p> <p>②作業内容が分かりやすい</p> <p>③作業ミスを少なくできる</p> <p>→効率的にたくさんつくれる！</p> </div> <p>○今日の学習の学びを書きましょう。</p> <p>【書く視点】</p> <p>①今日学習したこと、感想</p> <p>②「でも・・・」「・・・ということは」の発見</p>	○学びを書く視点を設定し、全員が自分の考えを書けるようにする。 【思】 疑似体験と実際の製造とを結び付け、根拠をもって自分の意見を書いている。(ノート記述)
---	-------------------	--	--

(4) 評価

- ・疑似体験で考えたことを関連させ、自動車製造の工夫について自分の意見を、根拠をもって表現している。(思考・判断・表現)

6 実践を振り返って

(1) 指導の実際

本時では、自動車工場の分業制について、実際に自動車づくりの体験を通して、その意義について考えた。導入部では、学校で行った折り鶴作りと自動車工場の写真とを比べ、1つの物に関わる人数の違いについて気づき、「1人でつくることとグループでつくることの違いはどのようなことなのか」「部分的でなく1回でつくった方がたくさんつくれるのではないか」という疑問点につなげることができた。しかし、写真資料の提示の際、「折り鶴と車はそもそも物が違う」という発言があり、教師の意図した働く人数ということに意識して目を向けられなかったという反省が生まれた。

実際に自動車づくりを体験した際には、分業制でつくったグループからは肯定的な意見、1人でつくった人からは否定的な意見が多く生まれた。このことから、作業を分けた方がより効率的にたくさん物をつくれることができるという結果につながった。

全体を通したポイントは、学習課題である。本時では教師の意図とは違う発言が生まれ、教師と児童との間にズレが生じてしまった。社会科の学習(特に地理的分野)では、世の中で決まっていることがほとんどである。今回の課題では、「なぜ分かれて仕事をしているのか」という問いよりは、あえて分業制という事実を提示し、「分業制の良さとは何なのか」という問いで体験につなげ、考えていくという点も効果的だったのかもしれないと考えた。漠然としたものを考えるということも大切であるが、事実を知り、その本質を考えるということも1つの学習の方法として、効果的に今後使用していきたい。

(2) 研究テーマに関わって

① 授業中の発言や振り返りの内容から、手立ての有効性を検証する

1学期当初の段階(図1)と9月の段階(図2)での児童の振り返りである。1学期間の社会科の学習を経て、自分の考えを書くことに対する抵抗感が低くなっていることがうかがえる。「自分はこう思う」「○○はなぜなのか気になる」といった内容が強く書かれ、成長が見られた。児童の疑問については、フィードバックをし、児童の意見を聞く機会を設けることができた。次時につながる疑問や意見から、児童主体の学習が生まれることもあった。

この結果については、児童の意見や疑問を切り捨てずに拾っていったことが有効であったと考える。このことで、児童は「自分の考えは間違っていない」「どんなに小さなことでも大切なことだ」という書くことに対して楽しさが生まれ、授業中にふれなかったことや採り上げられなかった児童も積極的に記述するようになったと考える。

図1 1学期当初の児童の振り返り

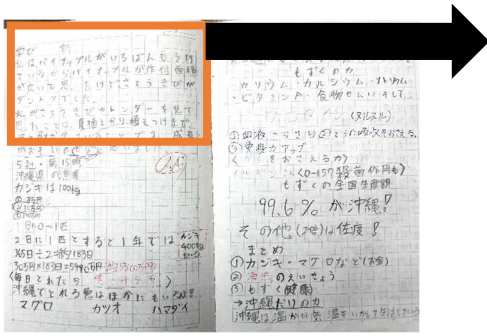
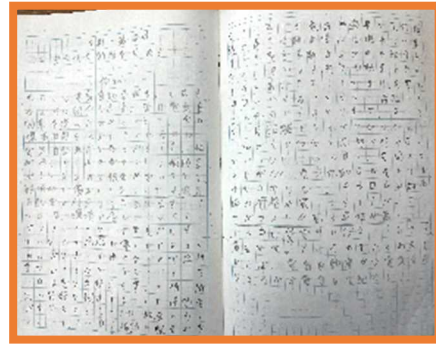


図2 9月の児童の振り返り



② 児童アンケートによる意識の変化を調査する（母数32）

Q1. 社会の学習は好きですか？

好き…20人 どちらかというが好き…12人 どちらかという嫌い…0人 嫌い…0人

Q2. なぜ社会科が好きなのですか？（複数チェック項目）

○何かを調べることができるから(15) ○ノートを書くことが好きだから(1) ○「なぜ?」「どうして?」を考えることが好きだから(13) ○自分の考えを書くことが好きだから(13) ○たかさんの資料を見ると、新しいことを知れるから(10) ○学習の「つながり」を実感できるから(15) ○分かりやすいから(17) ○今この世界の現状と未来をよりよくすることを学べるから(1)

Q3. 社会の学習を通して今までの自分と「変わった」と思う所はありますか？（自由記述）

- 楽しく授業を受けることができている。飽きない。(6人)
- 教科書をただ読むだけでなく、読む前に「なぜだろう?」と考えるようになった。
- 学習したことが、今まで習ったこととつながっていると気付くことができた。
- 自分の意見を積極的に話したり書いたりすることが多くなった。(8人)
- ノートにたくさん書くようになった。ノートに書くことに抵抗がなくなった。(5人)

全体的に肯定的な意見が多くを占めた。児童の意識の中には、社会科の学習が「楽しい」と感じる人が多くなっている。この「楽しさ」は、単純に授業が面白いというような理由ではなく、「考えることが楽しい」「つながりを感じるのが面白い」といった本研究テーマにつながるものであった。この結果は、振り返りの充実の他にも、学習課題を自分たちで見付けるといった活動が有効であったと考える。教師から学習を「やらせる」のではなく、自分たちで疑問やズレを見つける活動を継続したことで、「おかしいな」「でも…」というような視点を養うことができた。それが社会科の楽しさにつながったと考える。

総じて、4月当初に比べて学びの質が大きく向上していることもうかがえるため、これからも児童の「楽しい」と感じる手立てを継続させていきたい。しかし、児童の中には多くの資料が1時間の中に出ると、混乱してしまうという話も聞かれた。資料の量も精選し、児童の負担にならないような資料構成を考えていく必要性もあると感じた。

(3) 今後の課題

今年度、社会科の「楽しさ」を実感する授業を実践するにあたり、教師と児童との考えのズレを生まないことが大切であると実感した。教師主体の学習では、社会科から得られる「楽しさ」を感じ取ることはできない。児童から生まれた意見を大切に、「○○したい」という気持ちを前面に押し出していきたい。

また、単元計画と指導要領との関係性も課題である。指導要領と学習する内容を事前にしっかりと押さえ、単元計画と関連させて、児童の楽しさを生む授業構成を考えていきたい。

7 参考文献

- ・ 富田明広, 西田雅史, 吉田新一郎『社会科ワークショップ: 自立した学び手を育てる教え方・学び方』 新評論 2021年
- ・ 文部科学省 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編』 2017年
- ・ 富田明広, 西田雅史, 吉田新一郎『社会科ワークショップ: 自立した学び手を育てる教え方・学び方』 2021.7